

令和元年度 大明小学校の教育についてのアンケートの集計結果(保護者対象) 一学期

調査対象人数 PTA学校委員48名 提出者48名

A=そう思う B=ほぼそう思う C=あまりそう思わない D=そう思わない(ない)

No.	評価項目	実施時期	単位	A	B	C	D
1	学校は教育目標や具体的行動目標（あいさつができる子供・進んで学習ができる子供・落ち着いた生活ができる子供）を保護者に伝えている。	R1	人	31	16	1	0
		前期	%	64.6	33.3	2.1	0.0
		H30	人	19	29	0	0
		後期	%	39.6	60.4	0.0	0.0
2	学校は特色ある教育活動を行っている。（大明小学校の特色ある活動：①地域と連携した教育②地域文化（大明小ばやし）の伝承③縦割り班活動を中心とした児童会活動）④小笠原礼法の学習など	R1	人	31	17	0	0
		前期	%	64.6	35.4	0.0	0.0
		H30	人	29	18	1	0
		後期	%	60.4	37.5	2.1	0.0
3	学校は、子供が学習で努力したことを認めてくれている。	R1	人	31	16	1	0
		前期	%	64.6	33.3	2.1	0.0
		H30	人	26	22	0	0
		後期	%	54.1	45.9	0.0	0.0
4	学校では、子供の長所や個性を理解し、教育に当たっている。	R1	人	25	19	4	0
		前期	%	52.1	39.6	8.3	0.0
		H30	人	16	30	2	0
		後期	%	33.3	62.5	4.2	0.0
5	学校は、子供についての悩みや心配事に適切に対応してくれる。	R1	人	28	16	4	0
		前期	%	58.3	33.4	8.3	0.0
		H30	人	17	25	5	1
		後期	%	35.4	52.1	10.4	2.1
6	学校からの文書や連絡等は適切である。	R1	人	35	12	1	0
		前期	%	72.9	25.0	2.0	0.0
		H30	人	27	19	2	0
		後期	%	56.3	39.5	4.2	0.0
7	学校は、教育活動に適した施設・設備が整っている。	R1	人	29	17	2	0
		前期	%	60.4	35.4	4.2	0.0
		H30	人	28	18	2	0
		後期	%	58.3	37.5	4.2	0
8	学校は、地震・災害・不審者対策をよく示している。	R1	人	38	10	0	0
		前期	%	79.2	20.8	0.0	0.0
		H30	人	33	15	0	0
		後期	%	68.8	31.2	0	0.0
9	子供は、学校に行くことを楽しみにしている。	R1	人	28	19	1	0
		前期	%	58.3	39.6	2.1	0.0
		H30	人	25	21	2	0
		後期	%	52.1	43.7	4.2	0.0
10	子供は、学校生活の中で、（あいさつができる子供）（進んで学習ができる子供）（落ち着いた生活ができる子供）など、豊かな心、生き方について学んでいる。	R1	人	23	25	0	0
		前期	%	47.9	52.1	0.0	0.0
		H30	人	18	29	1	0
		後期	%	37.5	60.4	2.1	0.0
11	子供は、授業を十分に理解している。	R1	人	15	30	1	0
		前期	%	31.2	62.5	2.1	0.0
		H30	人	14	30	4	0
		後期	%	29.2	62.5	8.3	0.0
12	子供は、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的生活習慣が身についている。	R1	人	22	20	6	0
		前期	%	45.8	41.7	12.5	0.0
		H30	人	21	20	7	0
		後期	%	43.8	41.7	14.5	0.0

13	子供に携帯電話を持たせていますか。	R1 前期	人	11	2	2	33
			%	22.9	4.2	4.2	68.7
		H30 後期	人	13			35
			%	27.1			72.9
14	子供に携帯電話を持たせている場合、子供とルール作りをしていますか。	R1 前期	人	9	6	0	0
			%	60.0	40.0	0.0	0.0
		H30 後期	人	9	0	0	0
			%	69.2	0.0	0.0	0.0
15	子供達は、地域の行事へ積極的に参加している。	R1 前期	人	19	26	1	2
			%	39.5	54.2	2.1	4.2
		H30 後期	人	29	12	6	1
			%	60.4	25.0	12.5	2.1
16	子供達は、家庭や地域の中で、あいさつをしている。	R1 前期	人	16	26	6	0
			%	33.3	54.2	12.5	0.0
		H30 後期	人	20	22	6	0
			%	41.7	45.8	12.5	0.0
17	家庭と学校は、連絡や意思の疎通が図られている。	R1 前期	人	26	21	1	0
			%	54.1	43.8	2.1	0.0
		H30 後期	人	17	29	2	0
			%	35.4	60.4	4.2	0.0

自由記述欄から（設問1～設問17にかかわって）

※表現は要約しています。

2	・研究指定校になっているようなので、これからどんな動きがあるのか楽しみ。
4	・先生方が子供のよいところ等を見つけて声をかけてくれるようでとてもありがたい。
5	・担任は変わったが、連絡帳に心配事を記入すると対応してくれて安心する。
6	・学校からの文書、連絡がわかりやすい。 ・ホームページの活用、校長先生のたよりなど更新がとても多いので、いろいろな学年・学校の動きがわかってよい。 ・ホームページや校長通信など、いつも楽しみにしている。 ・「校長室から」の話が、毎回読んでいるが心に響く。これからもよい話をお願いしたい。 ・「校長室から」は、親である私たちにとっても子供にとっても勉強になる内容や楽しい内容ばかりでたのしく読んでいます。
9	・学校に行きたくないといった日は一日もなく、毎日元気に楽しく通える環境をつくっていただきとてもありがたい。 ・友達とのトラブルで学校に連絡したこともあったが、対応がどうかなという時もあった。トラブルが続くと子供が学校を楽しめないと思い、親も快く送り出せないのが、友だちや先生と楽しく学べればよりよい学校生活が送れると思う。
14	・夜や早朝にメールを送り合っているのを見ると、少し心配になる。親もルール作りに積極的にかかわるべきと思う。親も学習する場があるとよい。 ・子供に携帯を持たせるのは防犯上よいと思うが、子供は親に行き先を知らせていないことがある。よその家へ上がる場合は必ず知らせてほしいと子供たちに指導をお願いしたい。 ・防犯教室を見学した際、スマホを持っている児童が多いことに驚いた。便利な機能がある半面、安易に個人情報流出しやすく犯罪に巻き込まれるリスクが高いことを繰り返しご指導いただけるとありがたい。
15	・あまり地区の行事に参加していないが、ボランティア活動などもやってみたいと思い、探してみたが小学生ができるものは少なかったのが、情報があったら教えていただきたい。
16	・朝の挨拶を、登校班のみんな一人一人がもっと誰にでもできるとよい。 ・登校班で一緒の子供たちに挨拶をしても元気がなく、返事もないので残念。中学生はよく挨拶してくれるので、大きくなればできるようになるのかも、とも思う。 ・こちらからおはようと言わないと言えなかったり、他の子が言えればいいと思っているのか挨拶できなかつたりすると感じる。 ・挨拶は、してくれた方には返せるけれど自分からはまだできないようなので、家庭でも気をつけて声かけしていきたい。
他	・大明小の子供たちは、元気で明るく生き生きとしていてよい。

全体の考察

携帯電話の設問を除くすべての設問で、A B評価（肯定的評価）が85%以上の結果となっていること、また、昨年度後期の結果と比べ、13項目でA評価回答が増えているから、家庭と本校の共通理解、連携は順調になされていると言える。しかし、C評価の割合が昨年度同様に一定数あることに着目し、現状を振り返り改善の努力を続けていく必要がある。

上記の結果から、学校からの情報公開と、保護者と学校のコミュニケーションが大切なことがわかる。校長だよりや各学年だより、各種連絡文書の発行、ホームページの更新での情報発信と、学年・学級担任からの連絡帳や電話、必要に応じて直接会って話すことが効果を上げていると考える。

学校は子供たち一人一人のよさを認め伸ばすことや、子供たちが安心して登校できるよう誠実に対応することが求められる。時々、我々現場の教師にとって信じられないような学校対応が問題となってニュースとなる。早期の対応やコミュニケーションをとっていれば未然に防ぐことができたケースが少なくない。小さなすれちがいや対応不足でもコミュニケーション不足によって相互不信を招くことを忘れずに日々教育活動に専念したい。

学校教育・学校経営・学校運営について(設問1~8)

○設問1, 6, 8に関して、今年度は前年度までも行ってきた教育活動について、より発信力を高めたことがA評価が増えた要因の一つととらえる。子供たちや教職員の日頃の努力を外部に伝え、理解してもらえることが好循環につながる。大明小学校は素晴らしい学校だと皆が自信を持てる学校にしていきたい。

○設問4「長所や個性を理解した指導」について、教職員一人一人が、子供たちのよさや個性を生かし、伸ばす指導を心がけている。同時に、学校は社会生活を行う場として社会性を獲得させていく場でもあることから、集団の中の一人として指導しなくてはならない場合や、仲間と「お互いに折り合いをつける」という場合もあるため、バランスが難しい。

○設問5「悩みや心配事への対応」について、学級担任が誠実な対応を心がけている。また、今年度はスクールカウンセラーを活用している。しかしながら、C評価があることを重視し、組織で多角的に対応することで相談者の困り感に寄り添った対応と丁寧な説明を行う。

○設問17「意思の疎通」について、日頃の保護者の肯定的なご理解ご協力がとてもありがたい。学校側の至らぬ点が多々あったと思うが、一学期には苦情やお叱りの連絡がほとんどなかった。何かあった時に、家庭と学校で早い段階で連絡を取り合うことができたと感じる。今後も連絡を密に取り合うことを大切にしたい。

子供の様子について(設問9~17)

○設問12「早寝・早起き・朝ごはん」では、昨年度とほぼ同様の結果となっている。社会の多忙化により、なかなか望ましい生活習慣が形成できないと思われる。ラジオ体操の場で、地域の方が「早寝・早起き・朝ごはん」向上の活動をされていてとてもありがたかった。学校でも養護教諭を中心に継続して取り組んでいるが、今後も、意識を高くもって指導していきたい。

○設問13, 14「携帯電話」に関わって、保護者のスマホへの知識向上や防犯・ルールへの参加意識が求められている。学校では、一学期末に注意喚起の文書を配布した。また、5, 6年生を対象にスマホ利用の防犯教室を行っているが保護者の参加は例年少ない。来年度は、より専門的な講師（業者等）をお願いして実施したいと考えているので、保護者の積極的な参加を呼びかける。

○設問15「地域行事への参加」では、C評価が減少したがA評価も減少している。子供たちも習い事等で忙しい中で、地域の行事にできるだけ参加している状況が想像できる。地域のつながりは、子供の教育にとって重要な力を持っている。学校もできるだけ地域に貢献できるように、例えば朝のラジオ体操に地区担当や管理職ができるだけ参加するようにした。

○設問16「あいさつ」では、C評価が比較的多く、A評価が昨年度を下回っている。学校でも、朝の児童玄関では元気なあいさつができて、その他の場面ではあまりできていない現状がある。自分から進んであいさつすること、おはよう以外のあいさつもすることを指導していく。子供たちは場の使い分けをしがちなので、教職員、保護者、地域が一体となって指導していく必要がある。